

こんな活動です

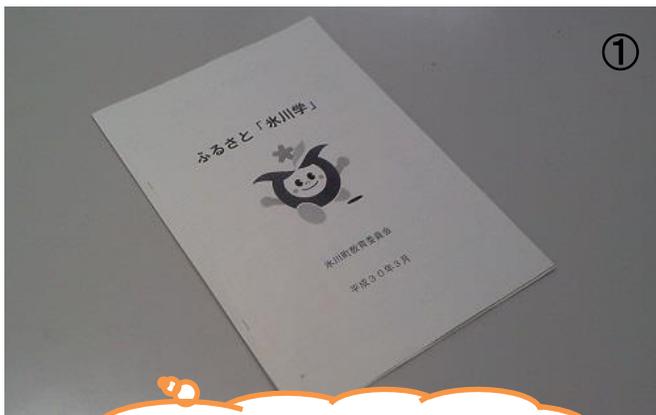
教育委員会生涯学習課が、地域にある教材を“ふるさと「氷川学」”としてカリキュラムを作成した。必要なときに学校の授業への活用を期待している。

八代	●活動名		●関係する学校名						
	ふるさと「氷川学」		氷川町教育委員会						
活動区分	学びによるまちづくりや地域課題解決型学習	地域人材育成	郷土学習						
	地域行事への参加・参画	ボランティア・体験活動	学校周辺環境整備	外部人材を活用した教育プログラム					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	学校運営協議会	有	無	企業・NPO等との連携	有	無
	0人		3人						

●活動の概要・特徴や工夫

ふるさと「氷川学」とは、氷川町の偉人、自然、文化、歴史、産業などを教材に、地域の力を活用しながら行う以下の学習です。(1)ふるさとを理解するための学習(2)ふるさとと自分のつながりを理解するための学習(3)ふるさとの将来を考えるための学習(4)郷土愛を育む学習(5)その他、郷土の学習にそった学習です。カリキュラムは大きく4つに分かれており、必要に応じて自由に学習することができます。[1. ふるさとの歴史にふれる][2. ふるさとの自然にふれる][3. ふるさとのひと・もの・くらしにふれる][4. ふるさとのために、今、自分ができる事を考える] また、4つのカリキュラムは、16のテーマ、36の講座に分かれて計画されています。指導者は41の団体個人が登録されています。教材となる素材は58にもなります。氷川町の魅力に触れ、学びそして理解することにより、氷川町に生まれて良かったという思いの醸成、そしてふるさと氷川町に対する誇りと愛情を育む取組を推進します。

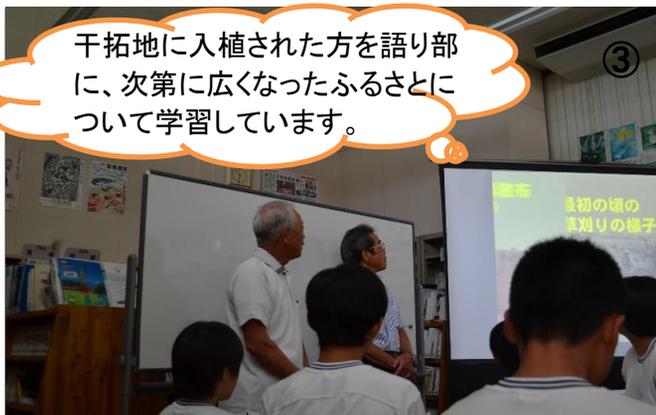
●活動の様子



① このような冊子にまとめて紹介しています。



② 町内を流れる氷川を観察しています。



③ 干拓地に入植された方を語り部に、次第に広くなったふるさとについて学習しています。



④ 地域の方々を指導者に、味噌づくりに挑戦中です。

●地域学校協働活動における効果・成果

〔2. ふるさとの自然にふれる (2)氷川の水はきれいな 活動事例②氷川の水ウォッチング〕の講座を宮原小5年1組で実施した。水俣に学ぶ肥後っ子教室の前に自分の町について学びたいという目的のもと行われた。氷川に行って観察、水に触れる体験(清らかさ調査)、教室にて、水生昆虫の調査、葦(よし)の河原について考えた。(子供)川の体験の乏しい児童に、川の観察・体験は新鮮な印象を与えたようである。大水の後ということもあり、葦にはプラスチック類など捨てられたものが引っかかっているなど、悪い面も観察できた。葦については未来の氷川の在り方を考える視点として紹介した。(地域)氷川ダム・農業用水のための堰など開発を進めてきたが、氾濫の危険など心配な面もある。今後、氷川をどうしていくかを大人から子供たちへバトンタッチするよい機会となった。(学校(教職員))地域教材は、地域に生きる人々が一番の指導力を有している。それを活用した有用な授業が展開された。これから、問題提起してもらった未来の氷川町について、子供たちと考えていく授業を展開したい。活動事例③町内の小中学生は、50年前、若洲干拓地に入植された方々を語り部に、自分たちのふるすとは、干拓によって次第に土地が広がってきたことを学習している。児童生徒は語り部の方の体験談から、干拓地特有の塩害、高潮等に打ち克つ努力と工夫を先人は行ってきたことが、「豊富な大地の恵み」を生み出す今日のふるさとを作り出したことを知るとともに、先人たちの取組を引き継ぐのは自分たちであることを実感している。活動事例④町内各小学校3年生は、国語「すがたをかえる大豆」の発展学習として、ふるさと氷川学のプログラムの中から、地域の方々を指導者に、ふるさとに伝わる方法で味噌づくりに挑戦している。できあがった味噌を使った味噌汁等を通して、豊かな食生活のための人々の創意工夫を実感している。